

9 ヒラタワムシのなかま

解説

ヒラタワムシのなかまは、殻がとてもうすかったり、小型であったりして見落としがちです。ホルマリンで固定すると内部が縮んで見えにくくなります。



特徴

体をつつむ殻は、とても透明で平たく、円形、楕円形、卵形などさまざまです。

この図鑑にのせた属

ヒラタワムシ属、アワワムシ属

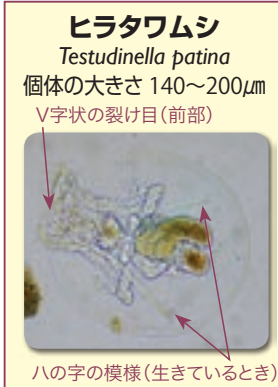
「ヒラタワムシのなかま」の見分け方

殻の形が皿状	殻の形が風船状
 <p>この穴から棒状の足を出す</p>	 <p>穴はあるが足はない</p>
ヒラタワムシ属	アワワムシ属

ヒラタワムシ属 *Testudinella*

解説

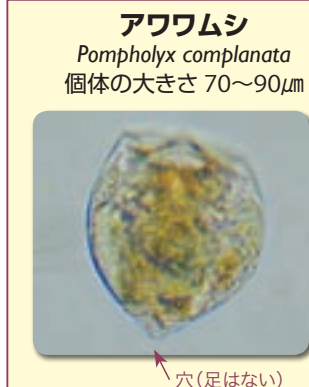
皿のような形をしています。種によって多少ふくらんだり、へこんだりしています。非常に透明です。前部にV字型の裂け目があります。後ろから約3分の1の所に足を出し入れする穴があります。



アワワムシ属 *Pompholyx*

解説

殻の形が風船状です。殻の後ろに穴はありますが、足はありません。殻は、非常にうすくて無色透明で見逃しやすいなかまです。



10 ミジンコワムシのなかま

解説

「ミジンコワムシのなかま」といっても、この科にはミジンコワムシ属しかありません。また、ミジンコワムシ属は、みんな形が似ているので、代表的な1種だけを紹介しします。

特徴

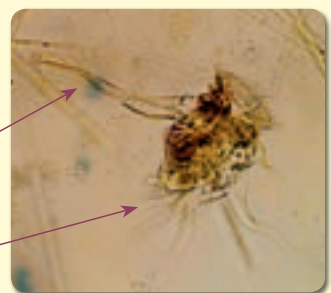
ハネウデワムシとよく似ています。ハネウデワムシは、長方形の体にハネのようなうすい付着肢をもっていますが、ミジンコワムシは逆三角形の体に太い腕のような突起をもってしています。

ミジンコワムシ属 *Hexarthra*

ミジンコワムシ
Hexarthra mira
個体の大きさ 340~410μm

腕のような突起
長短合わせて6本ある

この種には2個の親指状の突起がある



11 ミツウデワムシのなかま

解説

このなかまは、腕の数で3本のミツウデワムシ属と4本のヨツウデワムシ属に分かれます。

特徴

殻をもたない透明な米粒形の体に、松葉のような細長い腕を3本または4本もちます。足はありません。前2本の腕を後ろに伸ばして回転しながら泳ぎます。

この図鑑にのせた属

ミツウデワムシ属、ヨツウデワムシ属

「ミツウデワムシのなかま」の見分け方

腕は3本	腕は4本
	 <p>1本はとげのように短い</p>
ミツウデワムシ属	ヨツウデワムシ属

ミツウデワムシ属 *Filinia*

解説

体の2倍以上の細く長い3本の腕をもっています。2本は前方から、残りの1本は後ろの方から生えて、体の後ろに向かって長く伸びています。生きて

フィリニアターミナリス
Filinia terminalis
個体の大きさ 70~180μm



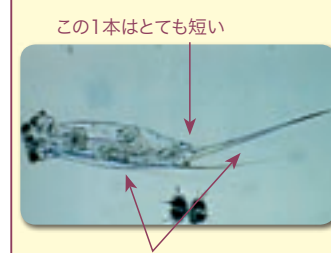
いるときは、腕は3本とも後ろに伸びていますが、死ぬと前の2本の腕は前方に伸びて、トゲナガワムシの形に似ることがあります。

ヨツウデワムシ属 *Tetramastix*

解説

ヨツウデワムシ属には、紹介した1種しかいません。研究者によってミツウデワムシ属に含める人もいます。ミツウデワムシととてもよく似ていますが、よく見ると細長い腕3本(前に2本、後ろに1本)に加えて、短いので気がつきにくいのですが、体の後ろに短い腕がもう1本あります。

ヨツウデワムシ
Tetramastix opoliensis
個体の大きさ 約200μm



12 マルサヤワムシのなかま

解説

このなかまは、水草などに付着することが多く、本当のプランクトンとは言えないかもしれませんが、頭部の繊毛の集まりである大きな輪盤をもっています。輪盤が開いたときにはとてもきれいです。

